



泊小学校だより
～潮風の中でたくましく～

令和元年 12月25日

第18号 校長 山本 洋介

第2学期の終業式を迎えることとなりました。(現在、体育館ステージ側のバスケットゴールを引き上げるワイヤーのところが壊れていて、その修繕に時間がかかるということでランチルームで終業式を行いました。)

子どもたちはこの2学期も本当によく頑張ったと思います。学習発表会では、運動会同様、みんなで目標に向かっていこうとする姿の素晴らしさを感じました。そのことで、発表会が充実し、今年も一つ階段を上れたように感じています。また、国語科の「書くこと」の授業では、玉川大学の大川先生(指導に来ていただいて2年目となります。)にも子どもたちの取り組む姿を褒めていただきましたが、どの学年の授業も同じようなイメージで進むことが出来てきていると思います。さらには、しおかぜカフェ、招待給食を通してふるさと学習をはじめ、たくさんお世話になっている地域の方へも感謝の気持ちが表せたように思います。

1月8日の始業式には、子どもたちが、令和2年の新たな目標をもって頑張っていけるよう、ご家庭でも家庭連絡票を見ながら振り返りをしていただいたり、冬休み中の行事等で英気を養っていただけたりとありがたいです。

3学期もご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いします。よいお年をお迎えください。

頑張りました 入賞おめでとう(敬称略)

＜第18回小学生交流クロスカントリーリレー大会＞

2年生以下の部 第6位 13分32秒

泊小学校Dチーム(2年河田知夏、1年石原侑、2年宮崎葉南、1年河田恭士、2年小原土道)

12月10日(12月11日日本時間未明)に、スウェーデンのストックホルムでノーベル賞授賞式が行われ、吉野彰さんが化学賞を受賞しました。(日本人27人目、化学賞8人目)吉野さんの研究「リチウムイオン二次電池」は、スマートフォンやノートパソコンなどの普及に貢献しただけでなく、再生可能エネルギーの出力変動を補うための風力発電や太陽光発電の拡大にも役立っていくということです。(自身でも「環境問題解決のエネルギー革命時代の中心となる」と述べておられます。)

この話題は、12月中にかなりの時間で、テレビニュースや新聞で報道されたと思いますが、吉野さんの受賞されたノーベル賞は、発明家のアルフレッド・ノーベルが残した莫大な財産によって始められたものです。ノーベルはダイナマイトを発明しますが、はじめは安全に山を壊して石炭を掘ったり、短時間に大きな建物を壊したりすることに使われていました。しかし、人間の平和な暮らしのためだけに使われていたものがやがて戦争に使われるようになっていきました。そのことでノーベルは、とても悲しみ、1896年12月10日に亡くなる時にダイナマイトで得た財産を平和と福祉のために使ってほしいと遺言に残し、のちにノーベル賞が創設されるきっかけになっています。

子どもたちも毎日のようにモバイル機器を目にしています。また、環境問題解決のエネルギーのことも毎日報道され、生活に直接に関わる問題となってきています。ニュース等で見かけたとき、ノーベル賞のこと、吉野さんの発明のこと、吉野さんの言葉など、思い出してほしいなと思います。

＜吉野彰さんの話の中から＞

- ・小学校の時に担任の先生にすすめられた本を読みながら、「ろうそくにはなぜ芯が必要か」などを思うところから化学に対する興味が深まっていった。
- ・小中学生の時には失敗をしてもあせらない。失敗から学んだ経験がきっと自分を成長させ、自分の困難を乗り越える力になる。(大学の講義の中でも「失敗しないと絶対に成功はない」と話しておられます。自身のリチウムイオン電池の研究も、3度の研究の失敗後、4度目の挑戦でようやく成功された研究であったとのこと。)
- ・失敗したことに蓋をしてしまったらそこで終わってしまう。失敗したときこそ、失敗の原因を自分に問う。